

南阿蘇村地域おこし協力隊×ウーン大学日本学科

オンライン交流会

(移住・定住プロジェクト)

2022
2/19

開催は協力隊の活動報告会最終日。この場をお借りして、ご来場いただいた皆さま、日ごろより協力隊活動にご理解をいただいている住民の皆さまに、深くお礼を申し上げます。



写真上/ウーン大学の学生の皆さん。ヨーロッパの中央部に位置するオーストリア。日本との時差は8時間。
写真右下・左下/南阿蘇村サイド。自己紹介も兼ねて、協力隊活動内容もお話しました。

熊本大学とウーン大学(オーストリア)の提携をきっかけに、2018年から続く交流。今回、私たちは音楽の都として名高いオーストリアで、日本学を学ぶ学生の皆さんと交流する機会をいただきました。授業の一環で「阿蘇研究」を学ばれているとのこと、皆さんは村の行政区や地理にも明るく、日本語も堪能です。

コロナ禍における「市民社会」「観光」「移住定住」などについて、都市部から移住し、村の地域協力活動に従事しながら定住を模索する地域おこし協力隊(以下、協力隊)の活動内容をふまえ、南阿蘇村の「いま」を語り合いました。オーストリアの文化にもほんの少し触れることができ、さまざまな価値観を持つ人どうしが互いを知ることの大切さを実感しています。

司会: ヴィルヘルム・ヨハネスさん(熊本大学特定事業教員)
南阿蘇村: 協力隊数名、職員
ゲスト: 飛び入り参加の県外大学生(村出身)

地域おこし協力隊には
どんな人がなるの?

協力隊と南阿蘇村との「移住前」のつながりはさまざま。移住を決意するにあたり、「何らかの思い入れ」を持つ人が自然と多くなるかも。

協力隊の活動や採用状況が、
他の自治体と違うのはなぜ?

協力隊は総務省の制度。運用は自治体ごとに異なり、担当プロジェクトもそれぞれ。住民の理解や協力を得られるような導入ができるかどうかが肝心!

コロナ禍で移住希望者の
動向は変わった?

移住希望者は増えているように思います。子育て・労働世帯の希望者増には、新阿蘇大橋の開通による近隣都市へのアクセス向上が影響しているのかも。

コロナ禍でのイベント開催・
地域貢献活動はどうしている?

延期や中止、感染対策下での開催など、都度話し合っってイベントに臨んでいます。地域貢献活動は自粛の向きが強いですが、だからこそ普段の地域巡回や井戸端会議が重要な社会生活の場になっていますね。

オンラインでの情報発信の
メリット・デメリットは?

空き家バンクでは、オンライン内見・マッチングを実施。移動が難しいときでも、何らかの形で南阿蘇の人や空気感に触れてもらえるよう努めています。とはいえ、やはり実際に見て触れることでしかわからないこともあります。

Theme talk!

2022年1月 地域おこし協力隊に着任しました!



いえいり あすみ
家入 明日美(両併二)
(移住・定住プロジェクト)

熊本市植木町出身。趣味は読書、猫、馬
2005年 帯広畜産大学入学(北海道)
2011年 修了
ソーゴー印刷(株)入社(北海道)
編集・ライターとして雑誌・
印刷物・web作成に携わる
2021年 退職・熊本にUターン
2022年 南阿蘇村地域おこし協力隊就任
フリーランス活動開始

この個人
のこと、SNS
など、SNSで、
徒然海で、
自然発信の熊
本



夢を気ままに語るコーナー

- 家のはなし
専門家の方への取材をもとに、家の未来にまつわる情報を発信したい。
- 村暮らしのはなし
この村で暮らしを営む人たちの根っこを深掘り。本にできるかも!
- 協力隊新聞の発行
現役隊員はもちろん、OB・OGの皆さんの話も聞きたい。